

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

令和5年3月31日
東京都立田柄高等学校

1 組織

(1) 東京都立田柄高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成 主幹教諭 (進路指導部担当) = 事務局長、
主任教諭 (生徒部担当)、主任教諭 (教務部担当)、
主任教諭 (総務部担当)、経営企画室長 計5名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主任教諭 (教務部主任)、主任教諭 (生徒部主任)、主幹教諭 (進路指導部主任)、主任教諭 (総務部主任)、主幹教諭 (1学年主任)、主幹教諭 (2学年主任)、主任教諭 (3学年主任) 計10名

(4) 協議委員の構成

①学識経験者 (大学教授)	文京学院大学	特任教授	加藤 竜吾
②近隣自治会	光が丘地区連合協議会	副会長	阿瀬見 宏
③近隣中学校長	練馬区立田柄中学校	校長	宮古 登
④近隣幼稚園園長	練馬区立光が丘さくら幼稚園	園長	檀原 雅恵
⑤田柄高校PTA		会長	石政 紀恵
⑥光が丘壮年ソフトボール連盟		副会長	藤井 通生
⑦元都立高校校長			安井 幸生
⑧光が丘警察署スクールサポーター			門野 芳幸

計8名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年5月13日 (金曜) 内部委員10名、協議委員5名

校長挨拶、協議委員の委嘱 (評価委員の選出)、協議委員自己紹介、校内委員自己紹介、本校の教育活動報告 (校長、経営企画室、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年、3学年)、協議委員より質問、協議 (意見交換、各協議委員より)、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明

第2回 令和4年10月7日 (金曜) 内部委員10名、協議委員2名

校長挨拶、本校の教育活動報告 (校長、経営企画室、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年、3学年)、協議委員より質問、協議 (校評価アンケート、意見交換、各協議委員より)、これまでの教育活動に関する取組と報告、

第3回 令和5年2月10日 (金曜) 内部委員8名、協議委員5名

校長挨拶、本校の教育活動報告 (校長、教務部、生徒部、進路指導部、総務部、1学年、2学年)、学校評価アンケートの結果、協議委員より、協議、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年10月7日 (金曜) 内部委員2名、協議委員1名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第2回 令和5年2月10日 (金曜) 内部委員2名、協議委員1名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 12月 全校生徒 対象：433名 回収：262名 回収率：60.5%
- ・ 12月 保護者全員 対象：433名 回収：243名 回収率：56.1%
- ・ 12月 地域・住民 対象：48名 回収：43名 回収率：89.6%
- ・ 12月 教職員 対象：48名 回収：48名 回収率：100.0%

(3) 主な評価項目

・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進などの評価項目を、設定する。

(4) 評価結果の概要・分析・考察（校長や学校全般への意見・提言内容）

昨年度は緊急事態宣言下における学校の対応についてオンライン教育等についての質問を加えたものに対して今年度の学校評価は、昨年度と内容がほぼ同様の項目について、前年度比較ができるようにした。そして質問内容は変えることをせず生徒保護者が回答しやすいように文章を精査修正し、12月から1月に実施した。大きな設問はそのままとし、集約にはFormsを活用し集計作業が円滑になったが、入力上の手間は課題となった。その中で昨年度、保護者の皆様には生徒のTeamsから回答をいただく形をお願いをさせていただいていたが今年度は回収率を上げる目的で紙によるアンケートに戻した。そのため昨年度回収率23.7%（115名）に対して今年度回収率56.1%（243名）と2倍以上向上した。しかし56.1%の回収率は更に向上させることが次年度の課題である。

生徒による学校評価アンケートでは、全般はほぼ昨年度と同様であったが、向上して肯定的に捉えている。特に質問項目4「私は学校の決まりをきちんと守っている。」肯定的評価90.4%、と質問項目8「私は校内でゴミを散らかしたりしていない。」肯定的評価92.4%の二つは高評価を維持している。

質問項目3「田柄高校では生活指導（身だしなみや授業規律など）が行われている。」については肯定的評価70.6%となっているが、自由意見には「指導が厳しい」という意見もある。一方「校則がゆるい。」という指導の徹底を求める声もある。

質問項目10「先生は体罰をしていない。」においては、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答した生徒が9.2%いた。管理職が否定的回答をした全生徒と面接を行い、確認したところ、「していない」という日本語の否定の質問文への理解が不足しており、誤った回答をしていることが判明した。今後、質問文の改善が必要である。

教員の質問項目12「働き方改革（個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できる）に積極的に取り組み、業務の効率化や在校時間の縮減に努めている。」については肯定的評価72.5%（令和2年度）、78.0%（令和3年度）、89.6%（令和4年度）、と年々増加傾向にあり働き方改革が進んでいると考えられる。しかし、自由意見には「働き方改革について、管理職にその意識が感じられず絶対的な業務量が減らない（むしろ増加傾向にあると感じる）ため、各教員の努力や取り組みだけでは解決できない危機的な状況にあると感じる。」という意見もあるが、一方「一部の人の“権利”のために、他の人にそのしわ寄せがいくというのは働き方改革といえるのでしょうか」との意見もあり意識の相違がある。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

今回の学校評価を受け、学校経営計画に反映させる。生徒保護者に対して、学校の教育方針や活動についての情報を提供・説明し理解・協力を得る。

(2) 学習指導

令和4年度生から新教育課程の開始に伴い、新しい科目の実施、観点別学習評価・

評定に取り組んでいる。また、1、2年生全生徒がタブレットパソコンを購入しているので、オンライン授業も一層の推進と改善を進めていく。授業においては約8割の授業でICT機器を活用した授業を行っており、今後も推進する。また、校内寺子屋事業や日本語指導についても引き続き進めていく。

(3) 特別活動

行事については全学年での実施が解禁となり、避難訓練や終業式・始業式を体育館で行うことができた。また、1学年行事として英語暗唱大会を実施し、教育活動の充実を図った。部活動については、加入率については十分とは言えないが、演劇部の関東大会出場、英語部 (Tagara English Speaking Students) の弁論大会及びディベート大会全国大会出場などがあり、その成果を壮行会や修了式で共有するなどした。引き続き、学校全体で部活動の活性化を推進していく。

(4) 生活指導

基本的な生活習慣の維持と問題行動への対応を引き続き適切に行っていくとともに、制服自由選択制の導入により多様な生徒への柔軟な対応を図る。日本以外の国や地域にルーツをもつ生徒が約4割いるため、日本での生活マナーを併せた指導を進めていくために、人権教育の一層の推進に努めていく。

近隣からの苦情等は減少しているものの特別指導が少なくないので、しっかりと学校生活を送れるようにしていく。

(5) 進路指導

進路決定率は85.8%、就職内定率は91.6%と高水準となった。特別支援教育コーディネーターを中心にYSWや入国管理局等、外部機関との連携を引き続き進め、卒業時の進路決定率の向上に向けた取組に繋げていく。

(6) 健康・安全

教育相談体制の更なる充実と、様々な安全行事を計画的に実施して生徒の意識を高めていく。また、スクールサポーター、助産師、専門医等と連携した生徒及び教員向けの講演会の実施により、多様な生徒への支援及び多様な事例に対応できるようにする。

5 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	1					4

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議及び企画調整会議への参加実績はなし。

【成果】コロナ禍において職員会議や企画調整会議への参加実績はないものの、本校生徒のボランティア活動(光が丘地区祭)、文化祭での活動、卒業式を参観していただき、講評をいただくなどしている。

7 その他

- ・集約にはFormsを活用した。Formsの活用で集計作業が円滑になったが、入力上の手間は課題となった。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。